

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道2号 <small>しゅうなんりつたい</small> 周南立体	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	白：山口県周南市孝田町 <small>やまぐち しゅうなん こうだちよう</small> 至：山口県周南市徳山 <small>やまぐち しゅうなん とくやま</small>			延長	3.5km
<b>事業概要</b> 一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。 周南立体は、周南市内の慢性的な交通混雑の緩和、交通安全の確保、地域経済の発展等を目的として、主要渋滞箇所三田川交差点を跨ぐ交差点の立体化及び隣接交差点の改良を行うものである。					
H20年度事業化	S41年度都市計画決定 (H一年度変更)	H一年度工事着手	H一年度用地着手		
全体事業費	約45億円	事業進捗率	約4%	供用済延長	0.0km
計画交通量	47,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 2.6	総費用 (残事業/事業全体) 37/39億円 (事業費：35/37億円) (維持管理費：1.8/1.8億円)	総便益 (残事業/事業全体) 96/96億円 (走行時間短縮便益：80/80億円) (走行費用減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：3.7/3.7億円)	基準年 平成25年	
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】 交通量：B/C=1.9~3.2(交通量±10%) 【残事業】 交通量：B/C=2.0~3.3(交通量±10%) 事業費：B/C=2.2~2.7(事業費±10%) 事業費：B/C=2.4~2.9(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.4~2.5(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.5~2.7(事業期間±10%)					
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・現道等における混雑時旅行速度が改善 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する（防長交通） ・下松市から徳山駅（新幹線駅）へのアクセス向上 ②物流効率化の支援 ・徳山下松港（特定重要港湾）から徳山東ICへのアクセス向上 ③都市の再生 ・周南市 都市再生整備計画（第2期（平成23年4月～平成28年3月））を支援 ④国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上【下松市～周南市】 ⑤個性ある地域の形成 ・周南市徳山動物園へのアクセス向上（H24観光入込客数：約26万人） ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上（徳山中央病院） ⑦災害への備え ・山口県地域防災計画における第1次緊急輸送道路として位置づけあり ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる					

関係する地方公共団体等の意見

山口県知事の意見：

一般国道2号周南立体の「対応方針（原案）」案に対して、異存はない。  
引き続き、早期完成に向けて、コスト縮減等を考慮の上、事業の促進に努めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。  
審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・H23年5月に国際拠点港湾徳山下松港が国際バルク戦略港湾（石炭）に指定され、周南バルクターミナル等関連事業の整備が進んでいる。  
・H23年4月より徳山中央病院に救命救急センターが開設され、県内で5番目、周南地域で唯一の3次救急医療体制が整った。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・平成25年3月末で事業進捗は約4%完了している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・現在、調査・設計を行っており、早期開通を目指し、事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・今後の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

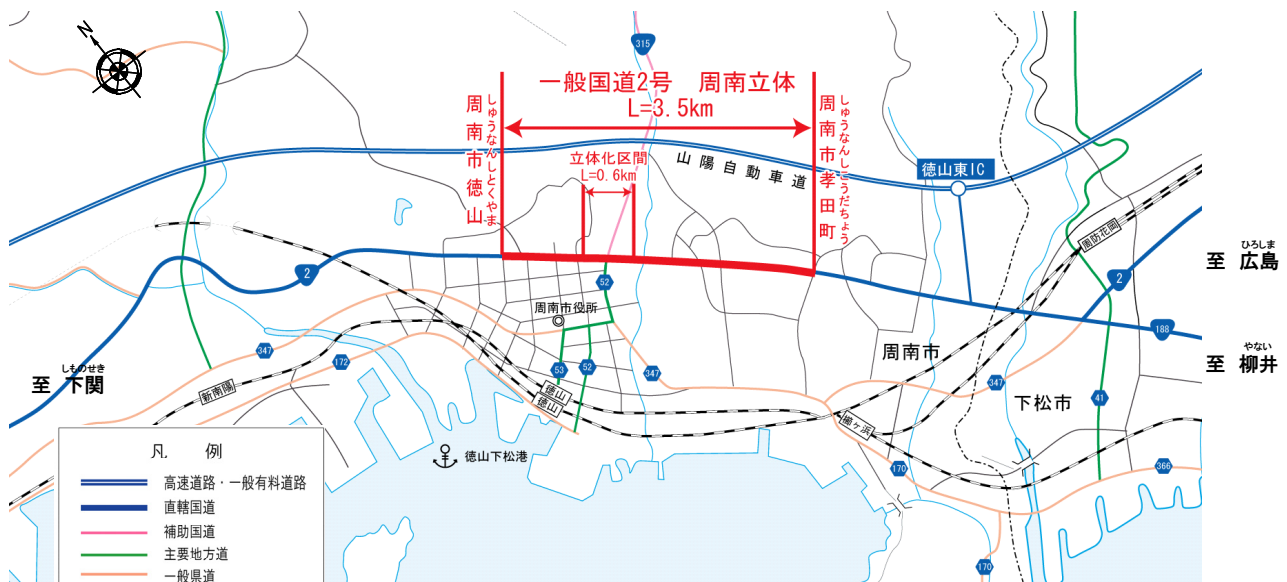
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。